

ルウ・ゴットリーブは語る



母性・覚醒剤・革命

ルウ・ゴットリーブは、「月刊キブツ」10・11月号（一九七一年）の「モーニング・スター」の紹介で登場した。モーニング・スターの土地の所有者で、そこを誰にも開かれた土地としている。彼は大変な雄弁家であり、彼の話を聞く者を引きこむ力を持っている。おだやかだがよくとおる声をもっているとのこと。かつてはジャズピアノリストであった。妻のリーナとのあいだに男の子一人がいる。

一方のディック・フェアーフィールドについても紹介済みである。「ザ・モダン・ユーロピアン」の編集者で、去年七月来日、各地の共同体を見て回った。その成果である、「日本の共同体」が間もなく出版になる予定だという。最近住所が変わったので左に記しておく。〔The Modern Utopian; P.O. Box 36604 Los Angeles, Calif. 90036, U.S.A.〕

母親をしあわせに

ルウ 我われと子供との関係のあり方は考え直されなくちゃならない。子供たちの方が我われより高度だという仮定にもとづいてね。我われの心のあり方より高いんだ。その考え方にもとづいて子供との関係のあり方が見直

されたら、社会のためになると思うよ。サン・スクリット語では「アクユータ」つまり堕ちていない、墮ちる以前、という意味の言葉を使っている。子供はアクユータなんだな。ほくにはその墮落は言葉とともに始まる気がする。つまり言葉によって、名前や形や境界がびしっと決められてしまうわけだ。そこで問題となるのは、それ以前の意識の状態にどうやって同調できるかだ。

子供の意識というのはより創造に近くて、ものがそうあるべきさまをいつも映し出しているんじゃないか。モーニングスターの表玄関のポーチにボサーとすわってさ、その開放地の四人の子供をながめているのは実にいいよ。まるで一緒にゆりかごに揺られているみたいない気分になるね。

先月ちょっと思いついたんだが、ぜひ正しいかどうか調べてみなくちゃならないと思っっていることがある。良い社会を作るための一番大事なルールは、「母親をしあわせにしておく」ことじゃないだろうか。子供をあやしている母親ほど喜びにあふれたものはこの世で他にちよつとみつからない。やっぱり『生理は天理』なんだな。いくら否定してみてもどうしようもないことはどうしようもない。

ぼくがいくら子供をうんで、分娩のスリルを味わいたいと思っても、結局生理は天理さ。かなやしない。子供をあやす女はいいんだなあ。だから「母親をしあわせにしておく」べきなんだ。母親たちが喜びにひたれるようだったら、残ったぼくらをそこまで引っぱり上げるのはわりと楽だからね。

そこでね、まったく同じとき。人間は、「自分自身のもの」を発見するまでは喜びにみちあふれるなんてできないな。つまりそのため生まれたという天職だ。今の時代で妙なことに、最も重大な問題は職業案内だ。金をもらおうがもろうまいが、とにかくやるという仕事をみんなが発見することが重要だ。

ディック そうなったら、男と女の仕事分担が変わるね。男の中にも、子供はうめなくとも育てる天職を持って生まれた奴がいるだろうから。そして女性の中でも子供をうんだり育てたりするよりは、今まで男の仕事と言われてきたことを喜んでするひとが出てくることになる。

ルウ そうだね。でもぼくの言っているのは「母親をしあわせにしておく」ということでさ、どんなに無理に思えても、母親たちが本当に望むことを全部吐き出してもらおうわけ

だ。母親はね、女性がそう創られたとおりのことをやっているんだから、まわりもほんとうにそれを支えてしあわせていられるようにはからってやるよ。別に賃金もらうわけでもないのに、たしかに喜びでいっぱいなんだな。

ところで、女だったら必ずそうしろとはばくは言っていない。でも知ってる限りでは、子供をあやしている母親はもっとも至福に近い状態にいるのは確かなんだ。だからそのままの状態にいることが一番良いんだ。たとえ彼女が七〇%の至福状態にいるとすると、それを一〇〇%の至福に押し上げてやるべきなのが我われコミュニティーの他のメンバーだ。

ディック いつも子供にかまけさせておくわけか。

ルウ 彼女がそう望むならね。重要なのは彼女がいつも喜びの状態にいられるということさ。

ディック 面白そうだな……

ルウ 調べてみればこれは理論だな、そして毎日の生活実践の場でのその信仰の試験だな。問題の解答がすべて本の中にあらわれているとしたらね、何も問題はないわけだ。本

さえ見ればいいことになるから。
ディック 参考にする本だったらくさんある。

ルウ そう。ただし答は入っていないがね。いまだに本を読むことが大好きだな。多少ひとを酔わせることしか本は役に立たないみたいだな。知恵はないか、あつてもほんの少しみたいだな。

覚醒剤の知恵

ディック 覚醒剤にはどのくらいの知恵があると思うかね。

ルウ LSDはあまりやったことはない。今までに合計しても二五回にもならないんじゃないかな。一九六三年にさかのぼるな。今まで、ぼくが何か精神生活で成果をあげられなかったら、それらはみんなLSDの使用に直接結びついているね。たくさんは必要ない。LSDはとびらを開けると言われているけど、ぼくの場合は蹴破るといふ感じだな。大きくダーアと蹴破るといふか。ラマクリシユナがいつか言っていたが、「私は砂糖を食べたい。砂糖に成りたいわけじゃない。」ぼくは知人たちの使っらしい量の半分以下しか使わない

ね。年に三度もやったら、たいへん多い年だからに今は感じてるね。

ディック 他の覚醒剤についてはどう。

ルウ そうだね、アメリカは今まさに、次に来る阿片(オピウム)を待ちこがれているところだ。この国全部がさ。この国の実際の推進力である労働者や、放浪者はみんな阿片を待ってるんだ。これ以上は面倒くさい道ばかりなんだ。阿片は至福を通して人をめざましくくれる。一〇時間ばかり肉体的、精神的に恍惚としてさ、終局的な肉体的悟りに至るといふわけだ。つまりゲロを吐く。あの苦しみを解き放つてくれる解放感の波打ちさ。わかるだろう。そうして夢も見ないであまい眠りに入ると。これがこの国の求めているものさ。阿片タバコでなしに、そのまま胃に流すんだけど。

ディック ゲロを吐くのは、食べるからか。

ルウ ちよつと過ごした場合だ。それにしてもすばらしいものだよ。なぜって、みんな嘔吐恐怖症だからさ。阿片はそれを通じて既存の肉体と、それにまつわる観念をぶち壊してくれるからね。ペヨーテも良いね。だが信じてくれよ、この国は本当に阿片を待ちこがれているんだからね。食べ物に関する法令の

規制はぼくらの時代最大の罪悪だよ。ケシや、大麻や、きのこや、サボテンのある種類を制限していることは、実際に人工的な食物の制限だよ。

何故こんな規制があるのか。つまり競争用の人格を強めるためさ。競争さ。清教徒の倫理で、道徳で、それがすべてさ。だが、ぼくらのほしいのは考え深い人格だ。けし、大麻、きのこ、サボテンは、そうした作用ができるんだ。けしはどこにでも育つよ。

ディック 阿片が身体に中毒作用をおよぼすことはないのか。

ルウ ない。中毒になるようにさせているのは規則だよ。規則がひっかけているんだ。ベンガルには阿片中毒はない。だれでも阿片のほしいものは店に行って買ってくる。コーヒーを買うのと同じことさ。コーヒーはもっとも競争的な飲みものだ。コーヒーを飲むとだれでも競争的になる。カフェインは自然の競争促進剤だね。だが、ぼくらにいるのは熟考する人びとだ。

ひとたび熟考型の性格に眼を開かせることができる四つものを禁じてしまったら、当然その社会は、あるかたよった型に成るわけだ。まったく逆説的なのだが、競争型の人格

ほど時代おくれなものはないんだ。道ばたでもどこでも流血さわぎを起こしかねない。立派な勝者なんかいらぬ。ひなたぼっこして知らず知らず生きているのを楽しんでる素的なうすのろがいいねえ。何でもあるじゃないか。楽しめばいい。なにがあつたら……こうだつたら……ああだつたら……なんて言いつこなしてさ。今あるものをひつつかまえて、有頂天になればいいんじゃないか。ここには何でもあるんだから。次の食事がどうやって来るか、本当は心配する必要なんかない。何が必要なんかい。神の食客さ。そう、ぼくらは食客なんだ。神の国に近づけなきゃならないんだ。「人間の幸福の可能性なしには生きつづけることは要するに無意味だ」と言つたのはスピノザだったかな。他に何が良くつてあがきつづけるんだい。

革命、革命……

ルウ 革命、革命といろいろ言われているが、やっていることといつたら最もおまかなな犯罪につきはぎしようとしてるだけじゃないか。ぼくに限って言つたら、革命の理論はひとつしかない。革命的であるとしたら、決してブ

ロの革命家でないこと。職業的革命家は絶対に良くない。アマチュアでなくちゃ。そしてその方法というのはもう革命に成功したと仮定して、そのとおりに生活しはじめることだ。

ディック そうそう、全くその通り。同感だなあ。

ルウ ティム・レアリー(「進化宣言」を参照)とエルドリッジ・クリーパー(ブラックパンサーの指導者)の対談は面白かつたらう。職業革命家とアマチュア革命家の対談だね。要するに、ティム・レアリーがブラックパンサーを保護することを引き受けたということだ。そこでブラックパンサーが言った。

「O・K。君たちは我われにある程度の責任があるわけだ。せむ守ってもらいたいことのひとつは、革命の成立までは少なくともクリーパーの生活はやめてもらうことだ」。共産党はクスリびたりを一度も信用しなかった。しかしいまブラックパンサーはひまなときはマリファナを吸うことは認めているんだな。

「革命的な仕事をしないでいい気分ではないのよかろう。」とね。だがある人たちはなかなか信用できない。やりたいときにはいつもいい気分になってしまう。思うにクリーパーなどは世界でもっとも四角ばつた人

間たちに毎日顔を合わせているわけだ。職業革命家たちだね。スクエア（ヒップの反対）たちだ。そうならざるをえないさ。というのははかれらが保身に気を使うからね。本当に今日革命的というのはさ、『殺されても別に構わないね。あんまりやつつけすぎてはくを殺したくなるやつがいたら仕方ない、撃たれてやろう』と本当に言えるやつだろう。それ以外では効果的じゃないね。怖がるから殺されたり、何もできなくなってしまう。自分の今の役割が唯一の役割だと思切らなきゃあ。自分の役割からいい気になって逸脱すると運命で消されることになる。

ヒッピーのできる、やらなくちゃならない、ヒッピーにだけできる仕事を与えられるようになってね。そうしたら、この国の人間がびくりきょうてんするようなチームワークのしるしを打ち立てられるからさ。かれらの他にそのできる者はいいやしないよ。

糞尿について

ディック たしかにそうした仕事はある。環境問題とか糞尿処理とか、もし国中歩いてゴミを拾って歩いたとしたら……

ルウ あのね、ぼくはゴミやクズに対する態度がだいぶ変わったよ。たとえばさ、デモをやっている道がこにくらしいほどきれいだとする。「よおし、ここでひとつくそしてやろう。おまわりを集めよう。ここら一帯におまわりを集めてやろう。そうしたらバランスがとれておちつけるぞ」と思うわけさ。わか

ルウ まあ、それらの「うすのろ」たちは一番高いんだな。ぼくらを試すからさ。どのくらいぼくらが愛せるか試すんだからね。まあ聞きたまえ。モーニングスターでまるまる一年というもの、なあんにもしないで居すわっていたやつらを知ってる。ニューメキシコに移っていったが、どうしたはずみか、信じられないくらい働くんだな。働かなくちゃならなかった。だから働いたまでなんだ。ぼくは夢みるし、祈ってるんだが、近い将来

全部もらってるからさ。どうかはつきりは知らないが、全世界が堆肥の山にならなくちゃならないと思うんだな。ぼくらは地球をめち

やめちやにしちやったからな。モーニングスターに五年近く暮らしたあとで、生態学的な基礎についてはほんとにちよっぴりしか知ってないことがわかったね。あまりにも複雑だからな。たとえ今日だけかが百万ドルをポンと出して「さあ、モーニングスターに必要なことを全部やってくれ」と言われても、どうしたらいいかまったくわからないな。だからなんにもしない。

ディック それでも何かやるじゃないか。ルウ ああ。だが音楽をひくことで地球に影響を与えないよ。そこで別に何もやっちゃいないんだ。面倒なことにはかかわらないでね。別に何も造らないし、あれこれもやらない。何をつくるべきかぼくにはわからないからな。

はつきり言っておかなくちゃいけないことはね、循環だの生態学的再循環だとかギヤ

ギヤー言う前に、そいつは地面にくそをひくことを覚えなくちゃいけない。自分で始めては。ユニオン・カーバイドのゴミ汚染については語る前に、ディック、君自身のゴミ汚染をどうにか再循環させてるかね。五リットルもの大切な水を使ってさ、下水に落としこんで再循環させているなんて思ったら大間違いさ。都会に住む人間はなんとかして一週間のうち一度くらいは、だれかの裏庭に聖糞をたれてやるべきだと思うな。中でやるんだからさ、外でもさ。自分で実際にそうしはじめてね、循環の輪に入ったら、本当にぼくらのまわりにある毒物の汚染も片づける方法が考えつくんじゃないのかな。実際、今はぼくらが片付きかかっているようなものさ。誰にも名案がない。「エコ・タクティクス」という本でも読んでみたまえ。新しい情報があることにはなっている。だがなんにも新しいことなんかありやしない。ひとつもさ。名案についてだが……

できないね。きらいだ。ラモンは「冬に太陽のエネルギ―は火のエネルギ―に乗りうつる」と言うが、そうは思わない。火の気なしにすごすのはこれで二冬目だが、一冬中そうとはいかなかった。たしかにこの国にはぼくもそうしようとは思わない場所も何ヶ所あることは確かだ。でも、できたらなるだけ少なく燃やしたいと思ってるね。何を燃やすにしても、熱を発生させるために酸素を大量に使っているんだ。地表には限られた量の酸素しかない。酸素をへらして、燃料を減らしているんだな。そしてそれにもなってプラントンが減少し……という連鎖だね。この話をしながら、タバコの灰を灰皿に落とすんだ。ぼくの喫煙の口実は何も無い。許すべからざることだ。気狂いさださ。どうして、そう思いながらタバコを喫うか、言えないんだ。気狂いさ。弁護できないんだなあ。他人に害を与えてさ、ベタバタして、くさい習慣さ。それが大好きなんだからな。

クエーカー 非暴力セミナー
方法があるか——
●9月1日(金) 3日(日)
「交流の家」——奈良市中町38 大塚
電話0742-44-0776
●9月14日(木) 17日(日)
「フレンドシップセンター」——広島市
翠町一五四四 電話51-5529
●東京での連絡場所 電話451-7000
2「フレンド・センター」石谷まで。
(住所 港区三田4-8-19)
●講師
チャック・エッサー(24) フィラデル
フィア・ライフセンター在任。シカゴでフ
レンズのワークキャンプに参加。マルチ
ン・クリス・ムーア(25)同センター在任。
フレンズ平和委員。非暴力活動の訓練指導
者として働く。
▼新しい運動の具体的なすすめ方について
示唆に富んだセミナーです。希望者は前も
って連絡してください